

【お問い合わせ先】

キャタピラー・ジャパン株式会社

渉外・広報室

〒158-8530 東京都世田谷区用賀4丁目10-1

TEL: 03-5717-1122 FAX 03-5717-1199

本資料はキャタピラー米国本社が2016年10月25日に発信したプレスリリースを日本語に翻訳し、みなさまのご参考に提供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容・解釈については英語が優先します。

Caterpillar Inc. 2016 年第 3 四半期業績発表

(単位：10 億ドル、但し 1 株当たり利益除く)	第 3 四半期	
	2016	2015
売上高	\$9.160	\$10.962
1 株当たり利益	\$0.48	\$0.94
1 株当たり利益 (事業再構築費用除く)	\$0.85	\$1.05

(イリノイ州ペオリア発) — Caterpillar Inc. (NYSE: CAT) は本日、2016 年第 3 四半期の 1 株当たり利益が 0.48 ドル (前年同期 0.94 ドルからの減少) になったと発表しました。事業再構築費用を除いた 1 株当たり利益は 0.85 ドル (前年同期 1.05 ドルからの減少) となりました。同四半期売上高は 92 億ドル、前年同期の 110 億ドルから 16%の減少となりました。

Caterpillar の Doug Oberhelman (ダグラス・オーバーヘルマン) 会長兼 CEO は、「世界の多くの地域で経済は依然弱含みであり、結果として当社のエンドマーケットも大半が難しい状況から脱け出せていません。北米では、中古建設機械が市場にあふれ、鉄道のお客様は相当数の遊休車両を抱え、そして世界中で膨大な数の鉱山用トラックが使用されずにいます。」「しかし、今四半期にはいくつかの明るい材料もありました。中国では、建設業界と当社機械の市場ポジションの両方が改善しました。資源価格は、依然低いとはいえ、大半が落ち着いてきているようです。部品売上は過去 2 四半期それぞれで連続増となりました。当社機械の市場ポジションと品質は高いレベルにあり、リーンと事業構造改革がさらなるコストの引き下げにつながっています」と述べました。

同会長兼 CEO はまた、「これまでの Caterpillar の対応、そして当社チームがコスト削減および、停滞するエンドマーケットにかかわらず利益確保へ強くフォーカスし続けたことに満足しています。第 3 四半期では、売上高こそ 18 億ドルの減少だったものの、営業利益の対売上変動は予想幅よりはるかに良い数字となりました。変動製造原価は 2 億 3400 万ドル、期間原価は 4 億 2000 万ドルと共に減少したため、低迷する販売環境からのマイナス影響の大部分を相殺し、製品やデジタル能力への投資を継続することができました」とも述べました。

●2016 年見通し：

2016 年通年見通しは、売上高が約 390 億ドル、利益は 1 株当たり 2.35 ドル、事業再構築費用を除いた利益は 1 株当たり 3.25 ドルです。この見通しでは、年金および OPEB (年金以外の退職後給付) プランに関連して発生可能性のある時価評価損益 (2016 年通年業績に大きな影響を与えると見られており、Q&A 第 10 問で詳説しています) は考慮されていません。従来の 2016 年見通しでは、売上高が 400~405 億ドルの幅、売上高が前述中央値であった場合の 1 株当たり利益がおよそ 2.75 ドルから (事業再構築費用を除くと 3.55 ドル) となっていました。2016 年事業再構築費用の見積額は、従来の約 7 億ドルから現在約 8 億ドルとなっていますが、これは主に第 3 四半期で認識された資産評価額の切り下げに起因しています。

●2017 年売上見通し：

2017 年の売上高は 2016 年と大きく変わらないと予測しています。リスクのバランスは、特に 年上期はマイナス側に振れる可能性が大きいでしょう。しかしながら、当社の事業にとって重要な資源価格が概して 2016 年に付けた安値から回復してきているのは喜ばしいことです。資源価格が比較的安定し、2017 年にさらに上昇するようであれば、当社事業もそれに反応し、下半期はさらなる好転が期待できると考えるのが妥当でしょう。2017 年見通しは、世界経済成長が過去数年同様 2.5%に近い数字にとどまるという当社の予測に基づいています。

オーバーヘルマン会長兼 CEO は、「一部のエリアでは改善に向けた初期の兆しが見られますが、依然として数々の困難に直面しています。2017 年については引き続き慎重な見方を維持していますが、時が経つにつれ前向きな勢いをもっと出てくるのではないかと期待も持っています。期待通りになるかはさておき、好転する将来に向けた準備は怠っていません。大規模な事業再構築とコスト削減諸施策に加えて、デジタル能力、資産や現場との「接続(コネクト)」、そしてより生産性・効率性に優れた次世代型製品の開発への投資を継続することで、当社はお客様と将来にフォーカスし続けています」と述べました。

以下は、2017 年売上高に影響を与えると見られるプラスおよびマイナス要因の概要です。

●プラス要因：

- ・当社事業に重要な資源価格のうち一部の価格は従前の安値から回復してきています。石油価格は、現在 1 バレル当たり 50 ドル近くまで戻っていますが、変動は大きいままです。2014 年につけた前回ピークを、70%近く下回るとはいえ、米国内石油掘削装置の稼働数は、2016 年 5 月以降 37%増加しています。
- ・採掘資源の価格は、その大半で今年に付けた安値から上昇しており、2017 年の平均価格は 2016 年比で横ばい、またはやや上昇すると予想しています。また、最近ではディーラのリビルド活動において改善が、さらに鉱山向けアフターマーケット部品売上也一部に立ち直りが見られます。
- ・中国では、建設業界と当社機械の市場ポジションの両方が改善しており、2017 年にも引き続き若干の改善が期待されます。
- ・ブラジルとロシアでの建設機械売上は 2016 年に底を打ったと見られます。
- ・調査では、この数年下降の一途だった鉱山セクターにおける設備投資が、2017 年に横ばいになる兆しが見られます。

●マイナス要因：

- ・鉱山業界の景況感は改善しているものの、お客様の作業現場では依然多くのトラックが遊休状態にあり、新品機械のオーダー数にも今のところ変化は見られません。
- ・鉱山関連資源の価格が上昇してきているとはいえ、一部はまだ、追加投資を促進するには低いと思われるレベルにとどまっています。
- ・2016 年下期における北米での建設活動や建設機械売上は、従来の通年見通しより低い数字にとどまると現時点では予想されています。またその状況が 2017 年も継続する可能性が懸念されています。
- ・欧州では、とりわけ Brexit (英国の EU 離脱) が欧州の経済成長、景況感、投資に及ぼす影響を巡って、不安定が継続しています。
- ・中国での売上が改善している一方で、中国政府の財政・金融政策による下支えが弱まれば減速するリスクがあります。
- ・発電機の売上は、とりわけ中東・アフリカ地域の産油国で投資ペースが鈍っていることから、減少する見通しです。
- ・海底油田・ガス田で使われる船舶向けのエンジンでは、石油価格が上昇してきているとはいえ、海上掘削装置市場を 2017 年中に改善するに十分な程度まで回復するとは見込めないことから、改善が見込まれません。タグ(引き船)市場も貨物の動きが鈍いことから、弱含みが続くと予想されます。
- ・農業セクターのお客様および小型発電機セットパッケージへの産業用エンジンの売上也引

き続き弱含みと見込まれます。

- ・北米の鉄道業界では、遊休車両の多さから、困難な状況の再来が予想されています。

オーバーヘルマン会長兼 CEO は、「ご存知の通り、私は Caterpillar での 41 年のキャリアを終えて引退する決意をし、Jim Umpleby が後任 CEO となります。Jim はこの数年間すでに経営チームに欠かせない存在であり、Caterpillar を率いる準備は万全です。私が彼に引き継ぐのは、より良い将来に向けて準備が整ったチームであることを確信しています。Caterpillar には素晴らしいチームがおり、製品ポートフォリオは今までで最高であり、機械の市場ポジションと品質は高いレベルにつけており、コスト構造は大きく改善されています。どこかの時点で当社のビジネスは好転するでしょう、そしてその時点は近づいています。鉱山、石油&ガス、鉄道、建設を含む当社の事業の多くにおいて、歴史的な買い替え需要レベルをはるかに下回る状態が世界の多くの地域で続いています。Jim にバトンを渡すにはいいタイミングです、というのは、主要業界が上向きになり、サイクル中間の買い替え需要レベルに戻れば、当社業績もさらに向上すると予測出来るからです」と述べました。

●ハイライト：

- ・第3四半期におけるコスト削減により、売上減による影響が軽減に - 事業再構築とコスト削減策が実を結びつつあります。
- ・建設機械の市場におけるポジションは引き続き改善 - 中国を含む。
- ・強固なバランスシートと株主への揺るぎないコミットメント - 1株当たり配当は0.77ドルを維持（2016年10月12日発表済）。
- ・2016年通年見通しは厳しい事業環境を受けて引き下げ。
- ・2017年売上は2016年から大きく変わらない見通し。

以 上

キャタピラー社について：

建設機械の歴史は、1925年にキャタピラー社と共に始まり、未来へ続きます。世界最大の建設機械メーカーであるだけでなく、エンジン・発電機などパワーシステムのリーディングサプライヤーでもあります。また、1963年以来、キャタピラー社は、半世紀以上にわたって、日本に重要な拠点を構えています。特に、主力製品である油圧ショベルの開発・製造をリードし、時代の先端を行く製品と技術を世界へ発信しています。